



『もりすけ通信』 3月号 ～学習指導部～

3月も中旬が過ぎ、今年度が間もなく終わろうとしています。4月からここまでの学校生活はいかがなものでしたか？充実した毎日を過ごすことができましたか？それぞれが一年間の学校生活や学習を振り返りましょう。

『2022年度版もりすけ』の活用について 活用ができていたら□にチェックを!

□月間・週間スケジュール

一年間、「その日暮らし」で過ごしてしまったということはなかったですか？見通しをもって生活していくことはとても大切です。他には「学習時間」や「一日の振り返り」などの記入についてはどうですか？

□考査メモ

5回の定期考査の成績は記録されていますか？それらを見て、今、何を思いますか。「自分の目標を達成できた」「成績が伸びた」「自己評価が上がった」など、反対に「成績が下がってしまった」「ほとんどページが真っ白のままでも一つ記録が残っていない」など。

□資格取得・検定試験の記録

最低1つ以上の記録が記入されていますか？検定は合格することが最終目標ではありませんが、まずはチャレンジすることが大切です。資格・検定試験はそのうちやればいよと思っていると、だいたいの場合、3年間何もせずに終わってしまうことが多いです。まずは「行動する＝受験する」ことです。

『2023年度版もりすけ』の活用について

News 1：表紙がカラーになりました！

本校公認キャラクター「コジュもり」を手帳カバーにフルカラーで登場させました。表紙の柄は女子の制服のスカートの柄になっています。このデザインは2年前の卒業生が製作したものを採用しました。

News 2：手帳の中身も刷新しました！

「守高生の学校生活の友」である「もりすけ」は年々進化しています。今回もみなさんや先生

方からいただいた意見や要望を参考に編集作業を行いました。「Newもりすけ」とともに毎日を充実させてください。

「南極せんせい」のメッセージ ～本校教諭北澤佑子先生～

先月、1・2年生の全員で北澤先生の講演を聴きました。

北澤先生は第61次南極地域観測隊の同行者として、2020年に約4ヶ月間、南極でさまざまな活動をされました。国立極地研究所などが行う「教員南極派遣プログラム」に応募し、教育関係者としては全国からただ一人、茨城県からは初めて選ばれました。帰国後もいろいろな機会を通して、南極での貴重な体験を多くの人々に発信しています。

◆「南極大陸」ってどんなところ？◆

広さは日本の37倍。氷の大陸でその厚さは2,400メートルから4,700メートルにもなり、富士山がすっぽり入ってしまいます。ペンギン、アザラシ、魚やプランクトンなどの生物やオーロラ、ビーナスベルト、地吹雪など日本では想像もできないような自然現象がある、まさに不思議の世界です。



◆なぜ南極で観測をするの？◆

観測隊のユニフォーム姿

北澤先生によれば、「それは地球の未来を読み解くため。」だそうです。南極は地球の姿をありのままのぞくことができる「地球の窓」と言われているそうです。南極大陸は「人類共通の財産」として各国の基地がありますが国境はないそうです。国境も人種も越えて世界中がお互いに協力しあって地球の未来のために観測活動に従事しているそうです。

◆北澤先生がおっしゃる「南極魂」とは？◆

『さまざまな体験や人々との出会いの中で、何事も決して他人事にはせず、他者の幸せを願い、共有していこうとする共に生きる心』を「南極魂」と呼んでいるそうです。南極での極限状態の生活を通して常に先生が感じていたことだそうです。

◆みなさんへのメッセージ◆

「南極に行きたい」と思ったときから実際に南極に行くまでには長い年月がかかったそうです。のべ8年間、3回目の挑戦で夢が実現したそうです。途中、何度もくじけそうになりながらもあきらめないという強い意志を持ち続けたそうです。その経験から学んだことは、『覚悟を持って夢を諦めずに行動し続けること』や『人と人との縁に感謝する心を忘れないことの大切さ』だと話してくれました。



貴重な話だけでなく、南極大陸や生き物たち、昭和基地の様子がわかる動画や写真を見ることができました。